

キャリアに拓く 5年生の活動

訪問先 医学部附属病院

鳥取大学附属小学校では、大学附属という環境を生かして子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」を実施しています。5年生の活動の様子を紹介します。

医学部の施設において、医学部附属病院で働いておられる方々による講義と医療に関する体験活動を通して、医療機器の工夫・改善について知ったり、自分の生き方や将来の職業について考えたりすることをねらいに取り組みました。

まず、看護師長さんから、看護師の仕事について、医師の補助的な仕事だけではなく、患者さんの一日の生活を支えるためのあらゆる仕事があることを伺いました。また、仕事上での間違いを防ぐために、薬によって注射器の色を変えていること、患者さんのことを考えて包帯を巻くときの力加減を考えていることなど、様々な工夫についても伺いました。実際に包帯を巻く体験にも取り組み、患者さんにとって快適に包帯を巻くことの難しさを実感することができました。そして、SPO2モニター、非接触型体温計、入院患者さんの動きが分かるセンサー、着けたままシャワーできるギプスなど、新しい医療機器・器具についても教えていただきました。包帯を巻く機械を開発中との話も伺い、医療の現場から、新しい医療機器が開発されることの工夫・改善について知りました。また、医療機器は30万品種もあるのですが、少量多品種であり、今後も工夫・改良が必要であることも伺いました。それらを開発される皆さんは、患者さんが少しでも快適に治療を受けられるように、少しでも早く回復できるようにという情熱をもって日々取り組んでおられることと子供たちは学びました。

シミュレータによる採血体験では、医学部生が実習で使うものと同じ機械と本物の注射器を使いました。先生の実演を見ていると簡単そうでしたが、体験してみると、注射針を刺す深さが浅すぎても深すぎても採血できないという難しさを実感できました。また、患者さんへの声掛けや消毒などの一連の流れをスムーズに行うことの大変さが分かりました。

内視鏡操作体験では、ポリープに見立てた物を取る体験活動を2人1組で行いました。特に、モニターを見ながら内視鏡を操作することが難しかったようです。先生に、「修行に1年かかります。」と伺い、子供たち皆が納得した様子でした。

車椅子体験では、従来の手動の車椅子と開発された電動の車椅子とを乗り比べました。従来の車椅子は、介護する側の人にも介護される人にも負担が大きいことが分かりました。しかし、開発された電動車椅子は、乗り方が画期的である上に、高さ調節や操作の簡易さなどの工夫が施されていました。実際に乗ってみることで、電動車椅子の快適さを実感することができました。

医学部附属病院で働く方々は、患者さんのことを考えて日々の仕事に一生懸命取り組んでおられることが分かりました。そして、患者さんの負担を軽減したり、より便利な医療機器を開発したりしようと研究にも取り組んでおられることを知ることができました。附属病院で働く方々の生き方に出会い、子供たち一人一人が自分の将来や生き方について考えることのできる学びとなりました。

